

# 三重県K島における子育て文化の伝承

## —30歳代女性の子育てからの検討—

The traditional succession of parenting culture on K Island, Mie Prefecture  
-An analysis of parenting by mothers in their 30's-

澤井 早苗\*<sup>1</sup> 佐藤 里絵\*<sup>2</sup> 塩崎 亜矢\*<sup>3</sup> 村本 淳子\*<sup>4</sup>

**【要約】**三重県の離島、「K島」において、女性の子育てがどのように伝承されているか、また子育ての影響要因を知ることを目的に、K島在住で子育て経験のある30歳代の女性に半構成的面接調査を実施した。

その結果、30歳代女性の子育ては、「自分が中心的役割を担う子育て」を行っており、「実母」「夫」が【重要他者】としてその子育てをサポートしていた。また、30歳代女性のゆとりある子育てにおいて、【子育ての環境】が関連しており、最も重要な影響因子であると考えられた。K島特有といえる子育ての伝承は抽出されず、子育てに関する考え方や方法も島特有のものは見当たらなかった。しかし、人々が密集して暮らす住環境や地縁、血縁の濃いK島ならではの人的環境は、子育て中の30歳代女性を孤立させることなく、地域ぐるみの子育てが行われていることが明らかとなった。

**【キーワード】**子育て、文化、伝承、環境

### I. 緒言

三重県K島は、本土から14km沖合いの伊勢湾に浮かぶ周囲約4km、人口約550名（2003年調査当時）の離島であり、古くは万葉集にも詠まれ、漁業と海女で栄えた島である。平地がなく天候による影響を受けやすいという地形の特徴から、島民は島の北側斜面に密集して暮らし、また、交通や通信、エネルギーの供給が乏しいことから、島独自の生活スタイルを維持している。

人の行動によって生み出される文化は、知識・信仰・芸術・道徳・法律・慣習、及び社会の成員としての人間によって獲得せられた技能及び慣習を含む複合的全体である<sup>1)</sup>とされる。だとすれば同じ文化の中で暮らす人々の間には、地域独自の子育て文化が存在するのではないだろうかと考えた。

### II. 研究目的

独自の文化を育んできたK島において、女性の子育

てがどのように伝承されているかを知り、また子育ての影響要因を知ることを目的とした。

### III. 方法

#### 1. 調査対象

三重県の離島、「K島」在住で子育ての経験のある（現在子育て中も含む）30歳代女性3名。うち1名は異文化との比較ができるように、島外から嫁いできた女性を含む。

#### 2. 調査期間

2003年8月4日～2003年8月6日

#### 3. 調査方法

グループインタビュー形式の面接法とし、ファシリテーターとして研究者が2、3名入り、子育てについての考えやしつけ、子育ての伝承について、自由に語ってもらうこととした。面接所要時間は約1時間、インタビュー内容については、対象者の同意を得てテープ録音し、同時にメモを取った。

\*<sup>1</sup> Sanae SAWAI: 元三重県立看護大学

\*<sup>3</sup> Aya SHIOZAKI: 高槻赤十字病院

\*<sup>2</sup> Rie SATO: 三重県立総合医療センター

\*<sup>4</sup> Junko MURAMOTO: 三重県立看護大学

また、30歳代女性との比較のための資料として、母世代（50歳代）、祖母世代（70～80歳代）の女性にも同じ内容のインタビューを行い、30歳代女性と同様の項目に沿ってその概要を整理した。

#### 4. 分析方法

インタビュー終了後、録音内容から逐語録を作成し、その中から子育ての特徴を示す内容を抽出後、できる

限り原文のまま意味内容に忠実にコード化した。得られたコードを類似性、関連性のあるものを整理し、子育ての伝承という視点からカテゴリー、コアカテゴリーを生成した。

研究データの信頼性の確保として、データ解釈のゆがみを避けるため、研究者全員がそれぞれ分析を行い、その後分析の一致を図り、相違について検討を重ねた。

表1 対象者の概要と特徴

	30歳代女性			母世代	
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
家族構成	夫の両親、夫、子ども3人（8歳女兒、5歳女兒、1歳女兒）、本人の7人家族	夫、子ども2人（8歳女兒、6歳女兒）、本人の4人家族	夫、子ども3人（10歳男児、8歳男児、5歳男児）、本人の5人家族	夫、長男夫婦、孫3人、本人の7人家族 娘2人は結婚（1人はBさん、もう1人は松阪に嫁いでいる）	夫と本人の2人家族 息子2人、娘・孫2人は島外
年齢	34歳	34歳	35歳	59歳	57歳
出身	島外	神島生まれ、島育ち	神島生まれ、島育ち	神島生まれ、島育ち	神島生まれ、島育ち
島外在住経験	有・24年 結婚後、神島在住	有・5年 名古屋で専門学校、4年の保育士経験後、神島で結婚、以後在住	有・1年 専門学校卒業後、結婚、以後神島在住		
職業	主婦（以前看護師）	保育士	出張所臨時職員	主婦、海女	主婦、海女
夫	神島育ち、漁師	神島育ち、漁師	神島育ち、漁師	神島育ち、漁師	神島育ち、漁師
出産状況	・島外の病院 ・里帰り出産	・島外の病院	・島外の病院、誰も出産時に面倒を見てくれたりしなかった	・自宅分娩 ・産婆に取り上げてもらった ・姑と一緒に生活していたが、産後は実母がいいと思う	・自宅分娩 ・産婆の取り上げてもらった
子育ての中心	自分	自分	自分	自分	自分
夫の協力	・まるっきりモチツキではない、オムツとか代えたりとかはしないが、一緒に育てているという気はする	・いろいろと手はかけてくれる	・手伝ってくれる		
夫について	・男は漁、女は家の事、という環境に育ってきたので何もなかったが、それではいけないと思ひ、協力してもらおうようにしている	・疲れていると、手伝わないこともあるが、洗濯もしてくれる	・疲れていると、全く手伝わないが、休みだとご飯などもしてくれる		
夫以外の協力者	・同居している夫の両親	・実母（しかし、兄嫁がいるのであまり頼れない）、働いている時間は、実母に任せている	・実母	・実母、姑	
子育て観、子どもがどう育って欲しいか	・子どもが小さいんで、船のこともあまり出て行っていないから、自分が（子育て）するのが当たり前の	・子どもが小さい頃、元気に育てばそれでいい。今、優しい子、自分のやるべきことをしっかりやる子に育って欲しい	・別に考えたことはない	・素直が一番、女の子は素直で優しく、自分のことは自分でできる意志の強い子にと思って育ててきた	
子育てに思うこと		・（自分が働いていると）自分は子どもに何もしてあげられないと思うが、おばあさんとおると、餅み焼きとかいうとこで、いろんな人から声をかけてもらうところがいいと思う ・実家は嫁さんに気を使うから子どもたちも行かないが、子供たちが怒られたとき、他人だが、近所が逃げ場になっている	・自分の親が近くにおるといふ環境はいい、子どもと自分たちだけだと、（子どもを）怒りきってしまつて逃げる場所がないが、近くにおるから、おじいちゃん、おばあちゃんのところに行く	・子どもは皆が見ていく、危ないことをしていたら、人の子だからと放っておかない、これだけ小さいところだと団結力がある ・忙しい時は子どもを見合ったりしていた。今は（親がちゃんと見ているので）ないが	・暇がなくて何もしてあげられなかった
子育てで分からないことがあった場合の対処		・育児書は読まない ・改めて実母に聞くことはしないが、アドバイスをもらうことはある	・実母に聞く、しかし改めて聞くことはない ・自然と教えてもらっている ・本を見て育児をすることは少ない	・実母、姑には言えない事でも母なら言える	

## 5. 倫理的配慮

対象の条件に適する対象者の選定は、島民の情報に詳しい島内診療所の医師に依頼した。その後、医師により研究協力の意思が確認された対象者に対し、研究の趣旨や調査協力の自由、調査内容の守秘について改めて口頭にて説明し、承諾を得るようにした。インタビューの際には、気兼ねなく話せるよう、集まりやすい場所や都合のよい時間帯を考慮した。

## IV. 結果

### 1. 対象の概要

対象は、研究に承諾の得られた30歳代の女性3名であった。対象の概要と特徴を表1に示す。3名のうち、2名はK島で生まれ育ち、島内で結婚しており、残る1名は島外出身者であった。夫は全員が漁師であるが、対象者の職業は漁業とは無関係の仕事をしていた。

母 世 代		祖 母 世 代		
Fさん	Gさん	Hさん	Iさん	Jさん
1人暮らし、夫は船の事故で死別、娘と息子は島外。Gさんと姉妹	夫、長男夫婦、孫娘3人、本人の7人家族 次男夫婦は神島、娘は鳥羽。 Fさんと姉妹、Aさんの養母	長男夫婦、本人の3人家族 子どもは4人(1男3女) 外孫が4人、Dさんが娘	夫(85歳)、長男、本人の3人家族、子どもは3人(1男2女)、長女と次女は名古屋、外孫8人	1人暮らし、子どもは大阪に1人
54歳	57歳	82歳	78歳	82歳
神島生まれ、島育ち	神島生まれ、島育ち	神島生まれ、島育ち	神島生まれ、島育ち	神島生まれ、島育ち
		無	無	無
主婦、海女	主婦、海女	主婦、海女	主婦、海女	主婦、海女
死亡	神島育ち、漁師	死亡	神島育ち、漁師	死亡
・自宅分娩 ・産婆に取り上げてもらった	・自宅分娩 ・産婆に取り上げてもらった ・産後11日目に挙げ床といって、11日になると海へ行って、洗濯場のところで足を洗って清めた、その間は姑もいたが、実母が家に泊まってくれた	自宅分娩	・自宅分娩 ・初めてのお産の時に大空襲がきて、産後3日目に赤ちゃんと一緒に防空壕に入った、そして5日目に東南海大地震(S19)がきた	自宅分娩
自分	自分	自分	自分	自分
		・抱っこしたりはしたが、今の人みたいな子育ての手伝いはない		・親やからちょっとくらいはしたが、男の人は仕事したら大変やで、そんなんしたら恥やった
		実母	・実母、産後1週間くらいは嫁ぎ先に来てくれて隣に寝てくれた	実母
	・素直に、人にうそをつかずに素直にというしつけは常々してきた	・昔はほぼ母乳、自分が出なければもらい乳までして育てた、母乳は大事		・女は自分が生きていく限り子どもを守っていくという観念があった
	・人の子でも、島の子でもが悪いことしていけないと注意する、世間ではそういうこともないと思うが ・家が学校から帰るところなので、子どもが通る時にただいまやおはようを必ず言っていくしこちらも挨拶する ・子育てに関しては、人の子も自分の子の様		・今は女の人のもいろんな物が欲しい時代、昔は切り詰めて月給で精一杯してきた、それ以上に贅沢しようとする気持ちで勤めるから子どもがこうなるんかと思う ・皆子どもが好きなので、よその子でも声かける、島の子も素直さがある	・最近の女の方は自分の幸せを第一に考える人がある、そういう女性が増えたことは、こういう時代になった国の状況が影響していると思う、物価が高くなって女の人にも働かなあかんようになったのが、こうなった傾向の1つやと思う、女性が強くなったと言うが、どこか履き違えている、自分だけが生きていくのが強くなったのではない ・今の子らは裕福になってきたから、人に頼ってとか思わず、自分のことだけ考えて育ってきた、過保護に。(娘世代も)そういうところはある、大勢で協力するってことはだんだんと少なくなってきた、自分だけが裕福やから自分だけで社会を生きていけるという気持ちがある ・神島だけは、って思ってるけど、10年位したら世間の波が神島にも流れてくる
		・産婆さんがちゃんとしてくれた ・昔は水もないし、風呂入れは3、4日に1回だった	・産婆さんが1週間通ってくれて、赤ちゃんのお風呂の入れ方教えてくれたけど、来やんようになったら自分から入れた ・島に昔はお医者さんがずっと住み込みでおってくれたから、(病気の時は)薬やった、夜中に熱出したら、救命丸を飲ました ・困った時は兄弟、親戚が手伝ってくれた	・分からないことは産婆さんに聞く ・核家族がなく、皆家族と一緒に住んでたから、それを頼りにしていた ・隣近所も大事で親戚づきあひみたくにしていた、近所が子どもを預かってくれた

	30 歳代女性			母 世 代	
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
親からの子育て				・昔は半分捨て育ちみたいところがある	
子育ての伝承		・熱があるという、「ああ、それは知恵熱やあ」とは、昔のことを言ってお教えてくれる	・赤ちゃんがよだれをたらすとええとか、これは体毒やでいっばいだなあかとか、そういうことを自然と教えてもらっている	・動かないと子どもが大きくなる、大きい子どもを産むと恥ずかしいと言った、薬をしていたと言われる	
自分たちが子どもの頃の手伝い、各世代の手伝い		・氏宿をしていたので手伝いをさせられていた		・上の子と下の子の年齢差が親子くらい違い、いちばん下の子の守をした、わかめの時期になると子どもを学校へ連れて行って守をしながら勉強をした、小学校4年くらいで人の家に守をしに行った、親戚の子の守をした、忙しいと言われると毎日おびに行った、親が仕事をしなければならぬので親から取るという感じ、しつけというのではなく、まだ本当の赤ちゃんを遊びながらおんでいた ・姑がいない家は女の子がいると世話をしなければならなかった ・麦踏み、サツマイモ掘り、薪取り、松葉の焚きつけ ・シメジ採りとかはしていない	・(仕事は)母親から自然と教えてもらった ・日曜日に弁当もちで山へ松葉の焚きつけに行った ・秋にシメジ採り
自分たちが子どもの頃の遊び方		・暗くなるまで遊んでいた、自然の中から遊びをいろいろ発見した	・クラスに召名いて、その中でもグループを作って遊んでいた。今考えると、すごい(危ない)ところに行っていた	・(海に入っても)今のようにお風呂にも入らないし、井戸の水、ばあっと浴びるだけで、個人に風呂はない	
子どもを見てどう思うか		・自分の子は自然のものに興味を持っているが、親自体が危ないといってお制限してしまう ・勉強するように言われて、自分の時はしていなかったのに、今の子はかわいそう	・全然外に出て遊ばない、友達と遊ぶのに、新しいゲームを欲しががる	・自分たちの頃はこうだったと言っても、時代が違うと言われるだけで通じない ・親がいないと自分でちゃんとする、自分しかいないと自立してやらなければいけないと思う、孫を見るとおばあさんのある子は甘くていけない、自分の子は粗末に育てたが孫にはそれではいけないと思うので、手をかけてしまう	・両親とも漁に出たので、保育所で遠足の時、自分でお菓子をちゃんと買ってきてある、娘は自分のことはちゃんとしていた
自分の子どもの子育てを見てどう思うか				・(昔は今と違い)生活自体が全然違い何もしてあげられなかった	・(昔は今と違い)暇がなかったので何もしてあげられなかった
子どもたちの将来について思うこと	・男の子なら、漁師をして欲しかった ・子どもの将来は親が考えることではないが、父親の背中を見てかっこいいと思える子になって欲しい	・子どもに任せる ・自分のやりたいことをするのがよい	・(島に)戻ってきたければ良ければよいが、一度は外に出て、親から離れて自分を知って欲しい		
通過儀礼	・生まれたときの厄払い			・産後11日目の挙げ床 ・女は汚いというのがあるので別にご飯を食べていた、床上げすると一緒に生活ができる ・八代神社へは、穢れ(女の人が生理の時、妊婦で腹帯している時、子どもができて110日目まで)は参ることができない、自分たちは絶対に行かない(どうして行っていないのかと思っているが)、今の人は行くかもしれないが ・妊娠すると、ポケットに物を入れてはいけない、双子の手を食べたり卵とかも双子の物は食べてはいけない ・サツメは結婚の嫁入り道具で親が持たせてくれた、腰巻も皆持ってきた、昔の嫁入りはだいたいが働き着をたくさんもってきた、今はない	

母 世 代		祖 母 世 代		
Fさん	Gさん	Hさん	Iさん	Jさん
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人は動いている方が安産だと言った</li> <li>・子どもは小さく産んで大きく育てよと言うのがあった。今はそんな事を言ったらえらいことだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に覚わっていく</li> <li>・自然と見よう見真似で育てる</li> <li>・娘は自分に分からないことを聞いてきた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母の姿を見て育ったというか、口づてにこうせなあかんでいうのは自然と覚える</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子守していてお腹がすくと親のところへ連れていった</li> <li>・麦踏みしたことがない</li> <li>・シメジ採りはしたことない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子守はただおんどるだけ</li> <li>・家の掃除をしてから出ないと学校へは行けなかった</li> <li>・麦踏みをしてその間も削った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孫たちの世代は、仕事を手伝うなんてことはない、今は何もしてもらったこともない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が子どもの頃は、百姓していたので、家に帰ったら麦踏みとか皆手伝った</li> <li>・自分の娘の時は日曜とかは草とったり、皆してくれた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後で手一杯やで、子どもも(手伝いに)使った</li> <li>・孫たちの世代は手伝うこともないし、親が手伝わせるっていうこともない</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・山歩きした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士で山や海で遊んでしょった、自然相手に遊びよった</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所に行く時間も自分できちんとしていた</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(ひ孫)夏に海水浴くらいしか遊ばない</li> <li>・(孫の世代)我慢する、辛抱すると言う気持ちが足りん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(今の子)学校時間終わって帰ったらテレビを見る、島は塾がないからテレビ見る</li> <li>・(今の子)自然と闘うという精神がない、精神的にもひ弱になってきてる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(昔は今と違い)生活にゆとりがなかったので何もしてあげられなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の人はいいなと思う、夏休みでも勉強しろと言うだけで、見ることはなかった、今は本を読んでやったりするが自分たちの時はそういうのは全くなかった</li> <li>・子どもを育てるのは2度とないので、息子が養えるだけのものがあるので仕事を辞めて欲しいと言った、今は子育てに専念している</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・娘が子どもを産んで10日一緒にお風呂の入れ方教えたが、帰ってきてから「母ちゃんが簡単そうにするからできると思ったけど、お父さんと二人がかりで頭支えて冷や汗かいた」と言っていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(孫の世代)今の人は横着や、社会がこういう時代で女の人が勤めに出ているから、いらいらすることも出てくる、精神的にな、子どもに当たるようになってくる</li> <li>・今は裕福になって子どもの好きなように親がさせようとする、そうすると、堪忍袋というか、こらえる気持ちが今の子にはない様になってきた</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・(孫世代以降)もっとしっかりしてほしい</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孫はあさんから、妊娠した時に前掛けに物を入れることをやかましく言われた</li> <li>・妊娠時、横尻をかいてはしけない、魚のタナゴとかクロダイとか子どものたくさんできる物は食べてはいけないと言われた</li> <li>・葬式へ行くと痔のある子、火事を見ると赤あざの子、なまごの口を食べてはいけない、ネズミを殺生するとネズミの毛のような物が生える</li> <li>・昔はもんべを反物で皆持ってきた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが生まれて110日たつとお宮参りする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの祝いはきちんとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が迷信的なことにこだわるとる人はあったが、ここにはない</li> <li>・名前をつけたときや3つになった時とかは祝いをした</li> </ul>

	30 歳代女性			母 世 代	
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
通 過 儀 礼 を 伝 え る か	自分は忘れていた	伝える	伝える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい時から教わっていることに抵抗感はない、どういう意味でしきたりがあるのかは分からないが、ずっと伝えられていること</li> <li>・昔の人の言うことは皆正しい、自分の子どもにも言った、親に聞かなければ自分たちも分からないので、自分たちが聞いたことは伝える</li> <li>・嫁には世間話の時に、昔はこうしてとって話をする</li> </ul>	
島 の 生 活 に つ い て 思 う こ と	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住みやすいところ、住むといいところ</li> <li>・初めは暑いられていると感じたが、どこへ行くの？と声をかけるのも挨拶代わりだと分かった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島の子どもは兼業で子どもらしい</li> <li>・交通とか便利さは不便だが、生活しやすいところ</li> <li>・こっちはすごい、住めばいいところ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚当初は、近所の人が何にでも口挟むのが嫌だったが、今は全然そうは思わない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会と一緒に生活になっている、生活がしやすくなった</li> <li>・今の時代ならかえって自給自足で生活しやすい、何もお金を出さなくても食べれる、作った物をあげあったりして、肴はもらって、野菜も伊良湖でもらったり、お嫁さんが神島はいいなという</li> <li>・昔は自分たちの労働でやったが、今はお金さえあればと言う感じ</li> <li>・今は年をとったら老人ホームがあるのどうしても後を継ぐというのではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物が豊富になった</li> <li>・今は都会となんら変わりはない、定期船で通わなければならないので不便というだけ</li> <li>・夫が漁師は一代でいいと考えていたので、子どもが島を出ることには抵抗はなかった</li> <li>・自分のところは老人ホーム行き</li> </ul>
島 の 産 業 ( 漁 業 ) ・ 仕 事 に つ い て				<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人(実母たち)は、雨の少ない時は山頂の畑に水を入れて運んでいた</li> <li>・(漁師の跡継ぎについて)昔は養子もあったが今はそのようなものはない、昔は長男は家を見るものというのがあったけど、今は夫婦暮らしが多くなってきた、自分のところは7人家族で島の中で一番大家族</li> </ul>	
健 康 に つ い て				<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所の先生が来てくれたから健康診断で早期発見で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のほうへ歩く人と、堤防のほうへ歩く人として、大体1時間弱くらいかけて歩く</li> </ul>
歴 史 的 変 遷				<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料からして違う、今はガスで焚くので燃料を山へトりに行かなくて良い</li> <li>・働きに行くとなると、工事現場、日雇いの労働という仕事しかなかった、子どもを預けるという場もなかった</li> <li>・自家発電の頃は11時になると電気が消えた、39年頃、東京オリンピックの頃に電気が来て、その時にテレビも多く入った、それから生活がしやすくなった</li> <li>・船は午前午後の2便しかなかった</li> <li>・映画は野外映画が保育所や浜にきた、昭和25年位、神島の人口が一番多かった頃、44、45年くらいまでは映画も来ていた、映画の前にニュースも入っていた</li> <li>・堤防ができるまでは浜で運動会もできた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水は水道になったし、トイレは汲み取りしなくて良い</li> <li>・テレビのない頃はラジオがあった</li> </ul>
海 女 に つ い て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が楽しいから潜る、遊び</li> <li>・夫の母とかは自分とは潜る感覚が違う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜りたいとは思いますが、潜ってはいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泳ぎ方を習ったわけではなく、いつの間にか堤防から飛び込んで泳ぎ方は覚えた、しかし海女はしていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陣痛がきてから浜から上がる人もあると聞いた</li> <li>・妊娠初期に海に潜るのは抵抗がなかった、寒くなるとお腹がキュウッと締めつけられ、固まってカチカチになったが、浜へ上がると早くお腹をあふれと言った</li> <li>・若い子もちょくちょく入るようになってきた</li> <li>・子どもの頃はあまり潜らなかった、自分も入るようになって、アツビのいるところを教えてもらった</li> <li>・海女で得た収入は臨時収入なので、娘が嫁入りとなると着物1枚でもと、買ったりした、海女の偉い人はいい道具も持たせてやれる</li> <li>・女の人は生活力がある、元手が妻らないので体が資本</li> <li>・昔は値もよかったが、えらいさんの接待業がなくなって売れなくなった</li> </ul>	
海 女 の 伝 承				<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てとか家の事は海女同士では言わない、世間話とかはするが、子育てのことは身内に相談する</li> </ul>	

母 世 代		祖 母 世 代		
Fさん	Gさん	Hさん	Iさん	Jさん
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが聞いて、いけないと思ったことは皆伝える</li> <li>嫁には言えない</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>昔は皆この土地にすまんならんようにしてた、今は自分の思ったようにする、時代の波、外におっても外にいい人がおったらその人と一緒になる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>昔は親の言うことを聞いた、今の人は自由、昔は親が決めたらそれに従う、そうするとそれが習慣になっていく</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちは畑はやっていない</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>勤める場所が漁師以外に何もない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>嫁ができにくいので後継ぎができず親の代で終わる家もある</li> <li>長男に限らず、出て行く人は島を出て行く</li> <li>お父さんが早く死んで、(漁師に)ならなあかんでも、(息子を) 大学まで出した</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく健康には気をつけている</li> <li>歩くのがいいというので歩いている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年特に自分たちで健康には気をつけている</li> <li>島は歩かないとどこへも行けない</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>足腰の弱い人が多い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>親があっても親のところに連れて行けない事情もあるし、子どもを預けるところがないので泣いた</li> <li>自分の母親にも気を使った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実家に同じ世代の子どもがいると気を使った</li> <li>テレビが入って40年代には映画もなくなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今は子どもは昔の半分以下どころか、人口も600人を切った、三島由紀夫さんの頃は1,400人からいた、今は小学校も1クラス1人しかいないところもある、4、5人そんな状態</li> <li>室戸台風は、自分達が子どもの頃だったが、瓦が飛んだり、家が壊れたりとかは1、2軒やった</li> <li>伊勢湾台風ときは、大分瓦が取られて全壊したり半壊したりした、巡視船が通わなかった、昔は朝いって夕方帰ってくるのみ、終戦後2回になり3回になりようやく4回になった</li> <li>水も便も自分の肩で運んでいた、お産した後も、赤ちゃんをおんて水を汲みに行っていた</li> <li>女の人は、手伝いもして、家庭を守って、百姓もした</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>息子の時は2日前まで入っていた、皆そうだった</li> <li>妊娠したからといって丁重にはしていない</li> <li>母乳だったので、自分のところは姉が未熟児だったので磯から上がるとお乳飲ませに来た</li> <li>当時は昔年がいても海女に行っていた</li> <li>昔は20キロでも採ってきたが、今は2キロも採れない、高級なものほど安くなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16、7になったらもう奉公に行ったが、夏には戻ってきて海女の稽古をした</li> <li>子ども3人生まれてから潜った、教えてもらわなくてもそうになっていく</li> <li>今は数も取れないし、売れない</li> <li>産むまで海に入っていた、腹が痛くなって海から上がってお産する人もおる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さい時から決まった物を投げてそれを採りに行って練習した</li> <li>よそからお嫁に来て全然泳ぎもできなかった子もアワビが採れる様になる</li> <li>自分もお嫁に来て畑に行っただけから休憩に潜って覚えた</li> <li>昔はサックと言う木綿の布をきてた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここに住んで嫁入りしたらどうしても海女に行かんならん、自分も生活に欲が出てくるから</li> <li>潜ってあわびが採れたら一人前</li> <li>妊婦でも産む近くまで潜る、重いお産は聞いたことがない、際まで体動かすのがいいのだろう</li> <li>サックは自分らがするようになってから買う</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>海女の中でのしきたりはない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海女同士でつながりはあるから、子育てについて聞くことはある</li> </ul>

## 2. 分析結果

集約したコアカテゴリーの関係性を検討、30歳代女性の行う子育ての特徴を見出し、それを関連図(図1)として示した。以下の文中ではコアカテゴリーを【 】、カテゴリーを〔 〕、対象者の直接的な語りを<斜体字>で表す。

### 1) 30歳代女性の子育ての全体像

30歳代女性の子育ては、「自分が中心的役割を担う子育て」を行っており、それを【重要他者】である「実母」と「夫」がサポートしていた。そして、30歳代女性のゆとりある子育てにおいては【子育ての環境】が関連しており、これは30歳代女性の子育てにおいては最も重要な影響因子であると考えられた。

### 2) 30歳代女性の子育ての実際

30歳代女性の【子育ての理想】として、<元気に育て>、<自分のやるべきことはしっかりやる子>というように〔こんな風に育てて欲しいという子どもへの希望〕が抽出されたが、同時に子どもが将来島外に出て行くことや漁師以外の職業に就くことについて、<島に戻ってきたければ戻ってくればいいけど、一度

は外に出て、親から離れて自分を知って欲しい>、<自分のやりたいことをすればいい>というように〔子どもの将来を束縛しない考え〕をもち、<こういうふうに育てたいとは考えたことがない>という〔理想のない消極的な育児〕が抽出された。これらのことから自由で凝り固まらない育児方針に基づく子育てを行っていることがわかった。

【子育ての価値観】としては、<自分はずっと(子どものそばに)おってやりたかった>と〔母親が子どもを育てるべきという価値観〕をもっていたが、女性が仕事を持ちながら子育てを行うことに関して<子どもは、自分たちだけやと怒りきってしまっって逃げる場所がないけど、おじいさん、おばあさんがおるとすぐ、そっちに行ける>と〔有職の母親が子育てにサポートを得ることへの肯定的な考え〕をもっていた。そして、自分が育った環境に習って〔自分の生育環境に影響を受ける子育て〕を行っていた。

自分たちの【子育ての現実】を振り返ってみて、<自分が時間に追われとる分、時間のあるときとないときで子どもへの接し方が違う>ことから〔親の希望により変化する自分の養育態度への懸念〕をもっており、<自分らはすごいとこで遊んどったのに、子ども

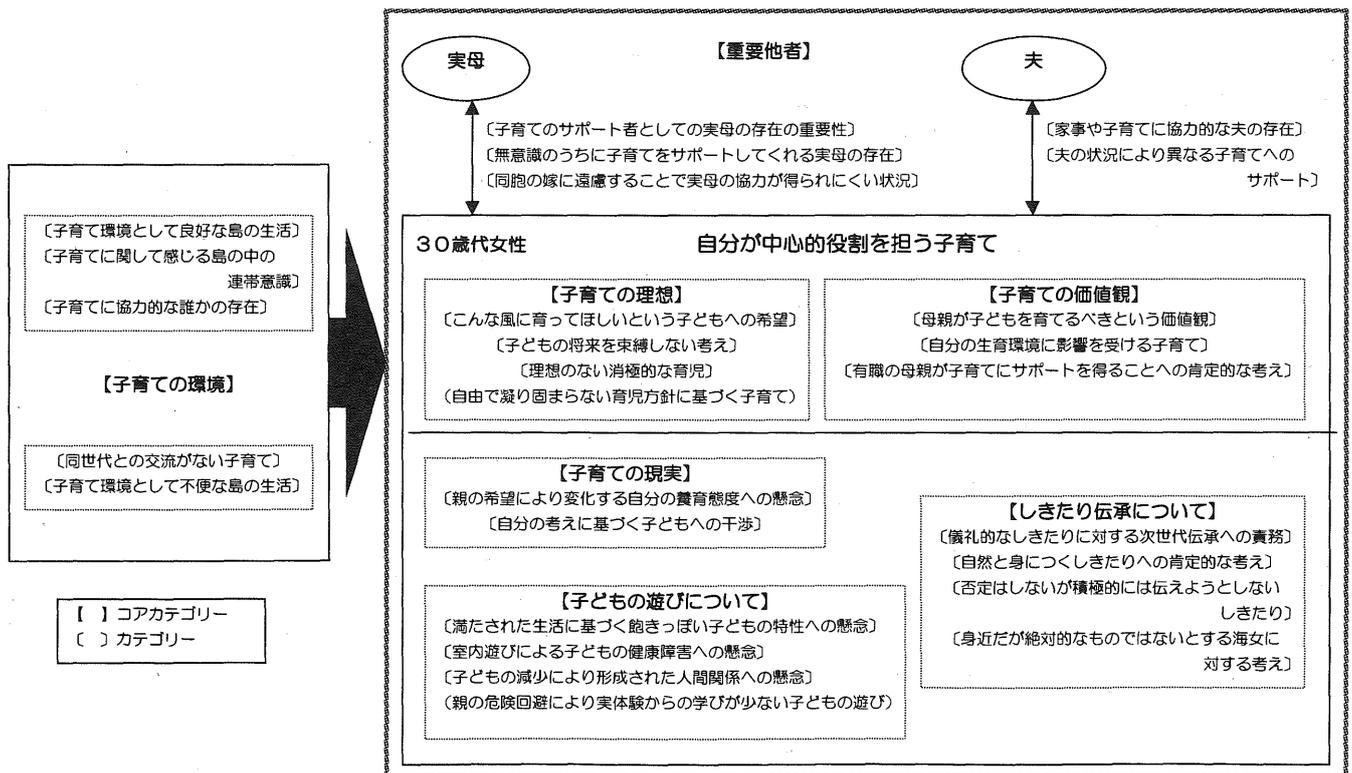


図1 30歳代女性における子育ての関連図

がそういうことしたら、あかんって止めてしまう>と〔自分の考えに基づく子どもへの干渉〕があることも語られた。

【子どもの遊びについて】は、神島で育った2名はくもつと、昔ながらの遊びっていうのかなあ、そういうのでも遊べるのかな、おもちゃとか買い与えたりせんでも。次から次へとみんなが新しいもんで遊ぶんでとんでもない>という〔満たされた生活に基づく飽きっぽい子どもの特性への懸念〕、<今の子どもは全然外に出てない>と〔室内遊びによる子どもの健康障害への懸念〕をもち、<クラスの子と遊ぶより大きい子と遊ぶことが多いから、クラスの子と遊ぶと自分が譲らなあかんところっていうか、我慢せなあかんことがある…大きい子と遊ぶと言うこと聞いてもらえるから自分にとって都合がいい>といった〔子どもの減少により形成された人間関係への懸念〕を抱いていた。

【しきたり伝承について】は、母世代や祖母世代から子育てに対するアドバイスを受けることはあっても、伝承と認識されるような子育て方法については特に語られなかった。また、かつて島の女性の職業は海女が主であったことから、母世代、祖母世代の女性（全員、海女である）に対して、世代間の伝承以外に、海女としての職業を通じての子育ての伝承についても確認したが、特に伝承されるような事柄は語られなかった。「子どもが生まれた時の厄払い」のような通過儀礼はあったが、これは島特有の儀礼ではなかった。ただし<自分らだけやったら無神経におるんかもしれんけど、おじいさんやおばあさんがおると、やっぱりそういうのってせなあかんって>と、〔儀礼的なしきたりに対する次世代伝承への責務〕は感じており、<生活の中に入りこんどって意識してないから>というように、〔自然と身につくしきたりへの肯定的な考え〕はもっていた。一方、〔否定はしないが積極的には伝えようとはしないしきたり〕、〔身近だが絶対的なものではないとする海女に対する考え〕があり、昔のしきたりにこだわらない考えも伺えた。

### 3) 子育てへの関連因子

島内には助産施設がないことから出産場所は島外であったが、産前・産後の子育てに関して不安は感じていなかった。子育て方法で分からないことがあった場合の対処方法については、育児書を読むことはなく、

分からないことは実母等に相談し対処していた。つまりその背景に、【重要他者】として、<オムツを替えたりとかはしないけど、一緒に育てているという気はする>と、〔家事や子育てに協力的な夫の存在〕を認めており、<改めて相談することはないけど、自然と教わっている>というように〔無意識のうちに子育てをサポートしてくれる実母の存在〕を感じており、特に〔子育てのサポート者としての実母の存在の重要性〕を認識していた。

3名とも結婚前に島外での生活経験があったが、島の【子育て環境】については、<物がなくて不便なのではなくて、人として育つのに良いところ>、<島では誰もが声をかけてくれる>というように、〔子育て環境として良好な島の生活〕と感じ取っていた。〔同世代との交流がない子育て〕についてはマイナスに感じていたが、<よその子が悪いことをしていたら注意する>といった〔子育てに関する島の連帯意識〕、<自分がしなくても誰かがしてくれる>という〔子育てに協力的な誰かの存在〕をプラスに感じていた。島外から嫁いできた1名は、<最初はすっごい、見られとるって。船に乗るとき「どこ行くの?」って挨拶代わりに言われるのがすごく嫌で嫌で…今は住みやすいとこ。住んだらほんとええとこ>と語り、島では親以外の身内や近所の人達から気兼ねなく声をかけてもらうことも多く、近所は、子どもが親から怒られた際に逃げる場にもなっており、子どもにとってもよいと感じていた。

## IV. 考 察

### 1. 子育てと環境

生活物資の供給や交通・通信・医療等、生活の不便さが解消し、島外との交流ができるようになった現在では、K島独自の文化にこだわらず、柔軟に新しいことを受け入れており、30歳代女性の子育ては、時代の流れに従った子育て方法で行われている。今回の調査においては、子育て方法や、祖母世代・母世代からの子育てに関する伝承について、特にK島特有といえるものは抽出されなかった。しかし、30歳代女性のゆとりある子育てに、地域としての環境が大きく影響していたことは着目すべき結果であると考えられる。

下敷領<sup>2)</sup>は、K島と同様の離島である奄美諸島にお

ける調査において、奄美の子育ての特徴として血縁・地縁による支援を受けていることを明らかにし、地域特性として、地域ぐるみの連帯感の中でのおおらかな子育てを挙げている。

K島においても、血縁・地縁は日々の生活と直結し、大きな影響力を持っている。そこが、都市部の生活との大きな相違点であることは言うまでもない。

かつてのK島では、階段状に家々がひしめき合う独特の形状であるがゆえに、人の手で運ばなければならぬ水や糞便の運搬、肥料や水を何度も行き来して運ばなければならぬ百姓の仕事など、女性に課せられる重労働があった。それらの仕事と子育ての両立は、その時代の女性にとってかなり負担であったことは、祖母世代・母世代からも語られた。一方、夫は外に出て家族を守るために仕事を担いながら、時には子どもに仕事の知識や技術を教えたり、様々な共同体としての行事に子どもを参加させ、生きるためのノウハウを伝えたりする役割を担っていた。祖母世代、母世代の語りの中にもあるように（表1）、こうした分担・協力が成り立つ背景には、直系の親だけでなく親戚など多くの人が家事や子育てに協力し合える環境があったこと、また、生活は常に外に開かれており、地域の母親同士、子ども同士の結びつきも強く、孤立する環境にはならなかったことがあると考えられる。現在の30歳代女性は、以前のような重労働はなく、育児についてもいつでもインターネットや雑誌などで情報を得られる状況にある。しかし、育児書を読むこともなく、子育てを「自然に」と語ることができるのは、祖母世代、母世代と同様、生活の質は変わってもやはり協力し合える多くの人の存在があり、孤立しない環境が保たれていることによるものと思われる。

密集して家々が立ち並ぶ環境は、プライバシーが守れないという面もあるが、「近所は親戚みたいなもの」と語られたように、そのぶん近所づきあいは濃厚となり、家族のように頼れる存在となっている。このようにK島では何か問題が生じたときには協力してくれる誰かの存在が常にある。また、子どもが外で遊ばなくなったとはいえ、外で遊ぶことのできる安心した環境は変わらず存在している。普段子ども達が集まる場所は島の玄関口にあり、誰もがどこの誰の子どもであるか認識し、顔を合わせれば挨拶をし、気にかけて声をかけてくれる。昔であればどこの地域でも当たり前に見

られた光景であるが、最近ではそういった地域の関わりは非常に少なくなっている。まさにK島の子育ては、皆が子どもに注意を払い、眼を向けているところが非常に大きく、祖母世代、母世代から変わらず保たれている周囲の人との距離感や人間関係が、K島の30歳代女性の子育てを支えていると考えられた。

## 2. 子育てにおける重要他者

汐見<sup>3)</sup>は育児しきたりの崩壊について、核家族が一般化し産みの親のみが全て自分の責任で行わなければならないこと、地域の子どもの社会集団や遊び場がなくなり子どもを放り出して育てることが極めて困難になったこと、出産も育児も人生の楽しみの1つとする育児観が強まってきていることを理由としてあげている。確かに1人の女性が子どもを産む数が少なくなった今、完璧な子育てを目指し、育児書等に左右され、凝り固まった育て方をしてしまうマニュアルママも少なくない。また親元を離れ周囲に頼る身内がない環境での子育てをする女性も増えている。子ども虐待につながる家庭環境には「経済困難」「親戚・近隣・友人からの孤立」「夫婦内不和」「育児疲れ」があげられるが、友人や近所との関係もなく、孤立した環境から生じた育児不安に上手く対処できない場合、子ども虐待にまで発展することも少なくない。

子どもへの虐待の大きな要因とされている育児不安について、服部<sup>4)</sup>は、その原因として①子どもの欲求がわからない、②具体的な心配項目が多く、それが解決されない、③出産以前の子どもの接触経験および育児経験の不足、④近所に母親の話し相手がない、⑤夫（子どもの父親）の育児への参加・協力がいない、の5項目を挙げている。しかし、K島においては、子どもの欲求を理解する術や、具体的な心配項目への回答は、常に周囲の人のサポートが得られる環境にある。また、同世代が少ないという島の条件は、逆に地域の女性同士、母親同士の結びつきを深め、先輩女性の育児に触れる機会を作れることを可能にしている。また、家族形態として核家族が増えているものの、重要他者として認識されているように夫や実母は子育てにおいて大きな位置を占め、子育てに協力的な夫と、頼りにしている実母が身近にいてサポート者として密接に関わることから育児不安を軽減していることが推測される。

土地の形状や住環境といった物理的な環境に加え、人的環境としての親戚や近所の人を見守りが重要であることは言うまでもないが、K島においては、夫、実母という重要他者の存在が30歳代女性の子育てに重要な役割を果たしていると考えられた。

### 3. 子育てにおける伝承

離島であり、独特の文化を育んできたという特徴を持ちながらも、K島において子育てに関して特別なしきたりの伝承が抽出されなかった背景には、国を挙げたの離島振興計画<sup>5)</sup>の推進による影響が大きいのではないかと考えられる。これは、離島の自立的発展を促進するために、生活物資の供給や交通・通信・医療等、生活の不便さの解消を狙ったものであり、30歳代女性の祖母世代、その次の母世代に比べて、現在のK島は島外の生活との格差はほとんど感じられない。しかし、逆に、そのような生活の質の向上が、島の文化の伝承を見えないものにしてしまっているとも考えられた。

日本は今、地域どうしのつながりが希薄化し、地域独自の文化がなくなりつつある。出産や子育てにおいても、都市化、核家族化が進行する中で夫婦だけのイベントと化してしまっている傾向にある。しかし、地域の習慣やならわしのさまざまは、人間の成長発達の重要な時期に社会全体で注意深く見守るべく、長い伝統の中で培われ、伝えられたものであり、各地に伝承される産育習俗の中には、単に夫婦、家族の子どもというだけでなく、ムラの子ども、地域の仲間が増えるという意識をもって出産を迎える習俗もある<sup>6)</sup>。K島においては、伝承される子育て文化は具体的内容としては抽出されなかったが、時代とともに人々の生活が変化しても子どもが島の子として扱われている点においては、子どもに対する考え方の中に島独自の伝承があると考えてもよいのではないだろうか。

鎌田<sup>7)</sup>は、声をかけあう、合力ということは、時には疎ましく思う女性もいるだろうが、困難な状況の人を救うことができるのは、人の温もりであり、この温もりは声や手をあてることによって人に伝わるといふ、もっとも原始的なことであると述べているが、まさしく、K島においては世代を超えて日常的に感じられる人の温もりが、島の子どもたちを育てていると考えられた。

## V. 結 論

1. K島における子育てに最も影響している因子は、子育て環境であった。人々が密集して暮らす住環境、子育て環境として良好と語られた自然に恵まれた島の生活や、子育てに関して感じると語られた島の中の人々の連帯意識、子育てに協力的な誰かの存在が常にあるという人的環境が30歳代女性の子育てに関連していた。
2. 時代が変わり生活スタイルや子育て方法が変わっても、子育て環境としてのK島が、地域ぐるみの子育てという基盤を持っている点については変わりなく続いていた。
3. 30歳代女性の子育てには、実母や夫の関与が大きかった。実母の存在を子育てのサポート者として重要としており、実母は無意識のうちに子育てをサポートしてくれる存在であると認識していた。また、夫が家事や子育てに協力的であることも30歳代女性の子育てを支えていた。
4. K島特有の子育ての伝承、および子育てに関する考え方や方法も島特有のものは抽出されなかったが、上記1～3の要因により、30歳代女性は子育てにおいて孤立することなく、子育てを行っていた。

謝辞：本研究にご協力いただきましたK島のみなさまには心からお礼を申し上げます。とくにK島診療所の医師には、研究計画の段階からいろいろなコメントをいただき、また研究対象者の依頼まで丁寧なご指導を賜りました。改めて深謝いたします。

なおこの論文は、第30回日本看護研究学会学術集会において発表したものです。

## VI. 引用文献

- 1) 石井栄吉，他：文化人類学辞典、弘文堂、1992
- 2) 下敷領須美子，他：奄美群島における子育て支援の実態 - 保健師・母親への聞き取り調査を基に -、母性衛生、47(1)、171-179、2006
- 3) 汐見稔幸：父親の育児参加、周産期医学、32、増刊号、692-696、2002
- 4) 服部祥子：地域社会における子育てを支える環境

社会の子どもとして、看護、51(4)、172-185、  
1999

5) 鳥羽市：三重県離島振興計画（平成15年度～24年  
度）、2008.1.6、

[http://www.city.toba.mie.jp/kakuka/machi/  
ritousinkou/mienoritou/rito/ritoul.pdf](http://www.city.toba.mie.jp/kakuka/machi/ritousinkou/mienoritou/rito/ritoul.pdf)

6) 鎌田久子，他：日本人の子産み・子育て-いま・  
むかし-、242、248、勁草書房、東京、1990

7) 6) に同じ、271-272